

イエスのことば 第 49 回

わたしの時はまだ来ていません。しかし、あなたがたの時はいつでも用意ができています。

(ヨハネ 7 : 6)

□イエスの公生涯の起承転結

起：受洗から、メシア宣言（紀元 27 年の春、過越の祭り）を経て、宣教開始まで

承：メシアとしての権威を現わす。しかし結果的に、指導者層の拒否を受ける

転：弟子訓練

結：エルサレム入城から十字架（紀元 30 年の春、過越の祭り）、復活、昇天

□文脈の確認

1. 転の部、弟子訓練。十字架まで、1 年余。
2. 紀元 29 年の春、過越の祭りの頃から、同年の秋、仮庵の祭りまでの、約 6 か月間において、イエスは、異邦人の地域へ 4 回、旅行した。異邦人地域への 4 回の旅行は、**退避（リトリート）と休息の時**であったと同時に、**弟子たちの訓練**を目的とした。
3. 今回から、秋 10 月の仮庵の祭りから冬 12 月の宮きよめの祭りまで、約 3 か月の間に起きた出来事を見ていく。そのあらすじは次のとおり。今回は、(1)。
 - (1) 仮庵の祭りの前
 - ① イエスの家族（弟たち）からの突き上げ（ヨハネ 7 : 2～9）
 - ② エルサレムへの旅（ヨハネ 7 : 10、ルカ 9 : 51～56）
 - ③ 旅の途上で、弟子たる者の心得についての教え（ルカ 9 : 57～62、マタイ 8 : 19～22）
 - (2) 仮庵の祭りにおいて
 - ① 仮庵の祭りでの衝突に関する総括的な記事（ヨハネ 7 : 11～52）
 - ② 仮庵の祭りの期間中における個別的な衝突（ヨハネ 7 : 53～10 : 21）
律法をめぐる、光をめぐる、メシアの神性をめぐる、
生まれながらの盲人の癒やしをめぐる、「羊飼い」（メシア預言）をめぐる
 - (3) 仮庵の祭りの後（ルカ 10 : 1～13 : 21）
 - (4) 宮きよめの祭りにおいて（ヨハネ 10 : 22～39）

仮庵の祭りの前

□アウトライン

- A) イエスの家族（弟たち）からの突き上げ（ヨハネ 7 : 2～9）
- B) エルサレムへの旅（ヨハネ 7 : 10、ルカ 9 : 51～56）
- C) 旅の途上で、弟子たる者の心得についての教え（ルカ 9 : 57～62、マタイ 8 : 19～22）

A) イエスの家族（弟たち）からの突き上げ（ヨハネ 7：2～9）

1. 時期は、紀元 29 年の秋、仮庵の祭りが近づいていた。イエスには 4 人の弟たちがいた。彼らはイエスをメシアとは信じていなかったが、兄イエスがメシア運動に身を投じてからすでに 3 年が経過し、そろそろこの落ち着かない生活に決着をつけて欲しいと願っていたようである。ガリラヤのナザレに住んでいた彼らは、ガリラヤのカペナウムを拠点としていたイエスのところに来た。

ヨハネ 7：2～5 時に、仮庵の祭りというユダヤ人の祭りが近づいていた。そこで、イエスの兄弟たちがイエスに言った。「ここを去ってユダヤに行きなさい。そうすれば、弟子たちもあなたがしている働きを見ることができます。自分で公の場に出ることを願いながら、隠れて事を行う人はいません。このようなことを行うのなら、自分を世に示しなさい。」兄弟たちもイエスを信じていなかったのである。

2. 当時のユダヤ人たちは、ゼカリヤ書の預言に基づいて仮庵の祭りをイスラエル王国の再興、すなわちメシアの王国を象徴するものとして理解していた。弟たちの意見は、兄イエスが本当にメシアなら、仮庵の祭りでメシアのしるしとなる奇跡を見せ、人々の支持を受けて王となれ、ということ。

ゼカリヤ 14：16 エルサレムに攻めて来たすべての民のうち、生き残った者はみな、万軍の主である王を礼拝し、仮庵の祭りを祝うために上って来る。

3. 弟たちからの突き上げに対して、イエスは次のように答えた。

ヨハネ 7：6～9 そこで、イエスは彼らに言われた。「わたしの時はまだ来ていません。しかし、あなたがたの時はいつでも用意ができています。世はあなたがたを憎むことはできないが、わたしのことは憎んでいます。わたしが世について、その行いが悪いことを証しているからです。あなたがたは祭りに上って行きなさい。わたしはこの祭りに上っていきません。わたしの時はまだ満ちていないのです。」こう言って、イエスはガリラヤにとどまられた。

4. 3. の中で「わたしの時」は 2 回語られた。それはいつのことを指すのか・・・
 - (1) メシアは 2 回来る。1 回目は、苦難を受けて死んで復活する。2 回目は、メシアの王国の王となり、全世界を支配する。よって、イエスが「わたしの時」と言う場合、過越の祭りのときに木にかけられて（十字架にかかって）死ぬ時か、メシアの王国の王となる時か、いずれかを指す。

- (2) ヨハネ 7:6、波線部「わたしの時」・・・メシアの王国の王となる時である。弟たちが期待しているのは、メシアがゼカリヤ書の預言を成就する時、すなわちメシアの王国の王となる時である。弟たちからの突き上げに対して、イエスはその時は「まだ来ていない」と答えた。なぜなら、ユダヤ指導者層がイエスをメシアではないと拒否したので、メシアの王国は将来の世代に延期されたからである。
- (3) ヨハネ 7:8、二重下線部「わたしの時」は、7:7 で世から憎まれることと関係するので、イエスが十字架にかかって死ぬ時である。その時は紀元 30 年の過越の祭りにおいてであるから、あと半年である。よって、「まだ満ちていない」。

B) エルサレムへの旅 (ヨハネ 7:10、ルカ 9:51~56)

1. 弟たちが祭りのためにエルサレムに向けて出発したあとで、イエスご自身も弟子たちを伴ってエルサレムに向かった。

ヨハネ 7:10 しかし、兄弟たちが祭りに上って行った後で、イエスご自身も、**表立ってではなく、いわば内密に**上って行かれた。

ルカ 9:51~56 さて、天に上げられる日が近づいて来たころのことであった。イエスは御顔をエルサレムに向け、毅然として進んで行かれた。そして、ご自分の前に使いを送り出された。彼らは行ってサマリア人の村に入り、イエスのために備えをした。しかし、イエスが御顔をエルサレムに向けて進んでおられたので、サマリア人はイエスを受け入れなかった。弟子のヤコブとヨハネが、これを見て言った。「主よ。私たちが天から火を下して、彼らを焼き滅ぼしましょうか。」しかし、イエスは振り向いて二人を叱られた。そして一行は別の村に行った。(=サマリアを通るルートはやめて、ヨルダン川東のペレアを通るルートにした)

2. 「表立ってではなく、いわば内密に」
 - (1) イエスがエルサレムに向かったのは、弟たちから突き上げられたからではない。ルカ 9:51 によれば、「御顔をエルサレムに向け、毅然として進んで行かれた」とあるように、明確な動機と計画を持っておられた。
 - (2) この年の仮庵の祭りは、イエスが天に帰る前の最後の仮庵の祭りである。そしてイエスの公生涯 3 年半の、最後の半年に入る。特にその半年の前半、この 3 か月の間に、イエスは多くの重要なことをエルサレムにおいて語った。それはイスラエルを民族的に救うためではない。すでに指導者層による拒否は起きた。個人的にイエスをメシアとして信じて救われる人たち、すなわちイスラエルの残れる者たち(レムナント)のためであり、同時に弟子たちの訓練のためである。

- (3) ユダヤ指導者層はイエスを殺そうとしていた（ヨハネ 7：1）。エルサレムに到着するまでの間に待ち伏せされて無用の妨害を受けないよう、イエスは、「表立ってではなく、内密に」エルサレムに向かったのであった。

C) 旅の途上で、弟子たる者の心得についての教え（ルカ 9：57～62、マタイ 8：19～22）

1. ルカ 9：57 彼らが道を進んで行くと、ある人がイエスに言った。「あなたがどこに行かれても、私はついて行きます。」（マタイ 8：19 一人の律法学者が来て言った）
2. イエスの応答 弟子たる者の心得についての教え（救いを受けるかどうかではない）
 - (1) 弟子になろうとするなら、犠牲を払うことを覚悟する

58 節 イエスは彼に言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巣があるが、人の子には枕するところもありません。」（「枕するところもない」とは、貧しい生活を意味する。この律法学者は裕福な生活をしていたのであろう。主は弟子たちの経済的必要を満たしてくださるが、弟子たちに富と繁栄を保証するものではない。律法学者の申し出はあまりにも軽率であった。弟子となる第一歩は「自分を捨て」マタ 16：24）
 - (2) 弟子となるように促しを受けたら、ためらわず、ただちに従う

59 節 イエスは別の人に、「わたしに従って来なさい」と言われた。しかし、その人は言った。「まず行って、父を葬ることをお許しください。」（父親が存命中は、息子は家にいて親に仕えるという義務感。父親が死んでから弟子になるという応答）

60 節 イエスは彼に言われた。「死人たちに、彼ら自身の死人たちを葬らせなさい。あなたは出て行って、神の国を言い広めなさい。」（死人たち＝イエスをメシアとは信じない人たち）
 - (3) 弟子となるための条件を自分で勝手につけない。主を信頼して、ただ従う。

61 節 また、別の人が言った。「主よ、あなたに従います。ただ、まず自分の家の者たちに、別れを告げることをお許しください。」（家族が賛成してくれたら、という条件付きの応答、この人は「鋤に手をかけて」いるのでパートタイム的弟子）

62 節 すると、イエスは彼に言われた。「鋤に手をかけてからうしろを見る者はだれも、神の国にふさわしくありません。」

□ヨハネ 7：6 「あなたがたの時はいつでも用意ができています」→だから、どうしろと？

- 「あなたがたの時」とは、人が肉体の死を迎える時（参照 ヘブル 9：27）
- 「いつでも用意ができています」とは、【あらかじめ決められた時があるが、本人はその時を知らないので、本人にとってはいつでも起こり得る】という意味